

5月の生活表

2024年 5月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：うごきだす

保育日数（21日）

月目標：＜3歳児＞

- ・空・雲・風・木々など神様がつくられた身近な自然に保育者と共に気づき、包まれて過ごすことの心地よさを感じる
- ・一人で、また保育者や友だちと一緒に好きな場所を見つけ、やりたい遊びに心を動かす
- ・さわやかな風の中、戸外の気持ちよさを感じながら遊ぶことを楽しむ

＜4・5歳児＞

- ・日常の中で、神さまが創造された世界を感じ感謝して祈る
- ・自分のやりたいことに興味や関心をもち、繰り返し楽しむ
- ・風・土・虫の命を感じるなど、身近な自然の中で探求することを楽しむ

気候変動で日本の美しい四季が中々順序よく感じられないこの頃、体調管理の難しさを感じます。年齢を問わず庇い合うことで保たれる場合もありますね。子どもたちのお世話は当たり前とはいえ、衣服の調節時には「暑いから・・・に」「風が冷たくなってきたから、もう一枚着てごらん」などその状況に合わせて声かけをしてあげる大切さを心掛けて、言葉とともに感じるものの経験もさせてあげてください。引いては言葉の獲得にも繋がります。

さて、今月の主題について考えてみましょう。赤ちゃんとして生まれた瞬間から目に見えるもの触るもの等々に自発的行動を起こすのが子供というものです。気がついた時にはもう主体性を持ち得ているのですね。その中で危険だからと注意する。こうした方が面白いよと教えてあげる。友だちと関わることでもっと楽しくなるよと目の前の友の存在を教えていく。数え上げればキリがありません。常に子どもたちの心と体は動いているのです。お父さんお母さんもおかつてはそうであったように。この「うごきだす」時には、心も体も元気でいっぱい遊びたい気持ち。それは、様々な環境に自ら関わろうとする姿があり、五感を駆使して夢中で遊ぶ姿がありますね。嬉しい楽しいから笑顔が広がるその表情により周りが幸せになり、気持ちが共感できるのです。なぜ？なに？やってみようと思うごかされる好奇心は、自らの体験で失敗してもやり直す力を育み、また新たな発見に再挑戦します。自分が大好き、友だちも大好きの中で共に育ち合える関係（社会性）は互いの思いに気づき、ルールのあることやお互いを守ろうとする姿勢を持とうとします。それはその中に自分の居場所があるという安心感にも繋がるのですね。そして、自分の役割をも見つけ出して、人のために自分ができることをも考え、気づき果たして行こうとするのです。その中で一人一人の違いにも気づくことで、お互いを認め、また寄り添って助け合う心も育てていくことにもなります。この大切な乳児期から幼児期、さらには、児童期へとさらなる子どもの成長が繋がっていきます。当たり前！ですが、この当たり前を私たち大人は保証しなければなりませんね。将来を見据える大切な時と人が幼児期なのです。心動かされる幸せが園の中に満ちあふれますように、楽しい、嬉しい素敵な毎日であるようにと私たちは神さまに祈り、願います。

《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：わたしは道であり、真理であり、命である。

月聖句：沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい。（ルカによる福音書5：4）

毎年、新学年が始まる時に、子どもたちを見て、思うことがあります。「大きくなったなー。」子どもたちと会わなかったのは、僅か数週間、いや数日の事です。でもその間に、子どもたちは確実に大きくなっているのです。体もそうですが、顔つきや雰囲気、変わっているのです。随分歳をとり、10年がまるで一日のように感じられる私にとっては、大きな大きな驚きです。

イエス様は、最初の弟子にこう言いました。「沖に漕ぎ出して、漁をなさい。」最初の弟子は、漁師でした。彼はこう答えます。「今まで働いてきたけど、一匹もとれませんでした。やっても無駄ですよ。」けれども、イエス様の言うとおりにしたら、今までになかったほどの大漁になったのです。彼は、自分の傲慢さを恥じ、自分の罪深さを懺悔し、イエス様の弟子になりました。

イエス様が言う通り、新たな道に挑戦したら、必ず大きな成果を挙げる。失敗することはない。そんなことはあるのでしょうか。あります。私たちの身近に、素晴らしい見本があります。

それが、子どもたちの成長です。

子どもたちには、成長しかありません。子どもの成長には、失敗はありません。時にはトラブルもあるでしょう。スムーズに事が進まないこともあるでしょう。けれども子どもたちは、すべてを糧にします。ご飯も笑顔も、汗も涙も、おしゃべりもケンカも、ころんでできたケガも、ほめられたことも怒られたことも、全てが子どもの体と心の栄養になるのです。

一人一人の成長のスピードや、過程が違うのは当たり前です。優劣なんてありません。すべての子どもが、自分なりの成長をしているのです。イエス様がそばに居てくださいます。素敵な子どもに成長します。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

- ♥ 季節を問わず、目まぐるしい寒暖の差に、体調管理を十分にしましょう。
 - ・規則正しい生活と、バランスのとれた食事を心がけましょう。
 - ・帰宅後の手洗い、うがいをしっかりしましょう。お風呂（シャワー）・シャンプー・耳あか・爪切りなど、清潔に保つ術を子供達にも知らせてください。
 - ・こまめに衣服の調節をしましょう。自分でも気付くように。
- ♥ 神様の恵みに感謝しましょう。
 - ・登降園の道々で神様が下さった命を探し、命あるものを大切にしてみましょう。
 - ・幼稚園の送迎・近隣へのお散歩などを通して四季（春から初夏への移り変わり）を感じてみましょう。
- ♥ 自宅でも、自分で出来ることを探し、自信が持てる機会を作りましょう。
 - ・身辺自立に向かって一つずつ挑戦し、自分でできることが増えていきますように。
 - ・大便の後始末が出来るように、また紙の使い方もご家庭で教えてあげてください。
（特に女子は、菌が入らないように拭き方に気をつけましょう。）
- ♥ 母の日を通して、身近な人たちの事を考えてみましょう。
 - ・家族の名前・年齢・仕事などを知らせ、みんなの働きによって日々の生活が成り立っていることを知らせましょう。
 - ・大好きなお母さんのお仕事に触れ、喜んで頂けるお手伝いを考えてみましょう。

[クラスだより]

<花組>

爽やかな青紅葉に早くも初夏を感じて...かと思えば朝夕まだ肌寒く衣替えをやり切れずにいる今日この頃です。

桜の綺麗な入園式から間もなく1か月が経とうとしています。今年度の2024年花組さんは、前年度の花組を過ごした小花ちゃん6名、Pre-preクラスよりの進級が5名、新入園のお友だち2名の計13名の子どもたちです。新たな【出会い】の中で、毎日幼稚園へ登園し、遊び、そして、お祈りをして...と園生活が始まりました。大好きな、いつも側にいていつもどんな時も守ってくれるお父さん・お母さんの手を離れて、マリアで出会った先生やお友だちと過ごす時間は、とてつもなく長く、寂しくて、不安で、勇気の

いることだったと思います。けれども、ご家庭とは違う園での生活は、また違う経験の連続で、そこに楽しさや面白さがあり興味が出てきて、遊ぶことへの意欲が湧いてきて、そして、いつも一緒にいてくれる...先生。いつも一緒にいる...お友だち。の存在を見つけ、安心して遊び始められるようになりました。もちろん、まだまだ、ドキドキすることも、ヒヤヒヤすることもあります。毎日を大切に「今」ここにいる子どもたちの「今」の姿を見守りながら「今」それぞれに必要な援助や言葉を慎重に選びながら、個々の成長の為に、保育（教育）の時間をすごしてゆきたいと思います。

季節は目まぐるしく変化してゆきますが、子どもたちの園生活もどんどん【うごきだす】そんな5月にワクワクするやら期待で胸一杯です。まずは、遊びを充実させてゆきたい、保育室での好きな遊びに加えて、園庭（戸外）で、自然に気づき、気持ち良さを感じながら、小さな草花や虫との新しい出会いが子どもたちの胸を高鳴らせ、子どもたちがどどんうごきだしてゆけるように、遊ぶことの楽しさを沢山共有してゆきたいと思います。そして、設定保育では、様々なことにチャレンジしてゆきたいと思います。どんな時も子どもたちが心動かす活動や経験になりますように、また、クラスだよりなどでもお伝えできれば、と思いますので、どうぞお楽しみに！

ご家庭におきましては、お子様の入園（進級）から1か月が過ぎ、生活のリズムが整う頃でありながら、季節の変わり目や新生活による疲れも出て来る頃です。今一度、子どもたちの体調について、生活習慣を意識しながら留意していただき、子どもたちの体調管理につきましては、子どもたちの様子を園と共有していただき、よりよい心身の状態を保ってゆけるようにご協力をお願いいたします。何か、お気づきのことやご相談等ありましたらご遠慮なくお声掛けください。

花組での一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

＜赤組＞

「赤組さんお立ちください」「はい！！」と元気いっぱいの声で立ち上がる7人の赤組さん。「赤組さんになることを楽しみにしていました」とそれぞれのお家の方々からお聞きし、その上で子どもたちの姿をみて、本当に嬉しく思いました。あっという間に1ヶ月が過ぎ、時の早さに驚きます。

今年度は7人の赤組さんでスタートです。今、目の前にいる赤組の子どもたちと沢山関わって会話したり遊んだり生活する中でどんどん知り、個人としても、また、集団生活の中での一人としても、子どもたちが主体的に様々なことを考え経験し、成長出来るように、また、新しい気づき、発見を見逃さず、色々な声に耳を傾け、寄り添って見守っていきたいと思っています。赤組の子どもたちの安心できる居場所となるクラスになればと思って1年間を過ごしていききたいと思います。その先に神様のお守りがあることも忘れず、感謝の心も持ちながら過ごしていききたいです。未熟者で至らぬ点多々あるかと思いますが、保護者の皆様のご指導、ご協力をいただきながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

朝のお時間後、赤組さんだけで過ごす時間を「分級」と言います。この新学期には

分級の時間に新しい何かを沢山伝えます。その「新しいこと」に目を輝かせ「出来るよ!」と自信たっぷりそして、真剣に聞いてくれます。まずは椅子の置き方です。「お椅子の前足が赤筋にピツタンコ」また、「お椅子一つ分だけお隣さんと間隔（あいだ）を空けましょう」と伝えます。ただ伝えるだけでは「？」なので椅子の間をクネクネと歩いて「クネクネ歩き」を子どもたちと検証し気持ちの良い間隔を楽しく身につけることが出来ました。次の日から「赤筋からズレてるよ」と声を掛け合っている姿があり感心しました。また、絵本ラックも3人で運んでもらいます。レクチャーした次の日から迷うことなく真剣に取り組んでいます。そんな風に何事にも懸命に真面目に取り組む子どもたちですが、まだ気持ちは不安や緊張でいっぱいです。ご自分の感情が上手くコントロール出来ずに涙が溢れて止まらない時もありました。そんな時サッと立ち上がった1人のお友だち。その子の向かった先はティッシュケースでした。そして急いで泣いている子に駆け寄り涙を拭いてあげていたのです。泣いているお友だちを心配する優しい姿に感動する瞬間もありました。まだご自分のことで精一杯だけれどこうして周りにも気遣える心から優しい子どもたちのまま大人になって欲しいと願います。

さて、毎年制作する「鯉のぼり」ですが、今年の鯉のぼりの鱗は、丸に撃ち抜いた折紙5色を半分に折り、向きを揃えて貼りました。形や色を捉えながら子どもたちと会話し、説明を進めていきました。途中で私がわざと間違えると「先生、違うよー!」と教えてくれ、みんなで笑って楽しく見本の出来上がり。「作ってみたい人ー?」の質問に「はい!」と元気に手を挙げてくれるみんなでした。制作が始まると黙々と取り組んだり「赤色はここにしよ」などと言いながら貼り、「出来ました!」と泳がしながら満足気に持ってきてくれ「いつ持って帰るの?」と早く持って帰りたい子も!どのお子さんののも可愛らしい素敵な鯉のぼりです。持ち帰ったあと、ぜひおうちでも泳がせてあげてくださいね。今月の主題は「うごきだす」です。刺激的な毎日。子どもたちの中で何が「うごきだす」きっかけになるのかな?と、子どもたちの思いに寄り添いながら引き出ししていけるように、またそれぞれがしっかりと集中して取り組めるような日々を過ごしていきたいと思います。

<緑組>

みどりぐみのバッチをいただいてから、間もなく1か月が過ぎようとしています。「緑組になる」から「緑組になった」という現実が、入園式を終えた次の日から子どもたちには押し寄せてきました。「はなぐみさんのお迎えをおねがいしまぁす!」とお手伝いが待っています。手を繋いで一緒に2階へ行くこともあれば、靴を靴箱にしまってあげる、鞆を先にお部屋にお届けする...etc. 子どもたちが準備していたことと、違うことを頼まれたり、一緒に行こうと手を差し伸べても、繋いで貰えなかったり。思うようにはならないことに戸惑うこともあったかもしれません。そんな時にでも、なんとか頼まれたことを果たそうと、いささか不安そうな表情で往来する緑組の初々しさがなんとも愛おしい4月となりました。初々しいといっても、緑組にとっては幼稚園生活最後の1年です。日々の展開に順応しながら、就学を意識して生活習慣を見直し、自律へと

導いていかねばなりません。生活習慣、リズムを一定に保ち「自分のことには自分で」の基本的な考えを示しながら、その上で必要な援助は個々に対応し、各々の「出来た！」という肯定感を大切に育んでいきたいと考えています。そして早速、進級間もない緑組に、つい先日ちょっとした質問を投げかけてみました。

「もしも、お友達が「ないしょやけど、〇〇ちゃんにこれあげる」って、かわいらしいシールや、綺麗な小石、キーホルダーやカード、ミニカーなんかをプレゼントされたらどうする？」と。子どもたちは一瞬、表情を硬くして「お家にたくさんあるから、要らないっていう」と答える子がほとんど。でも...お気づきのお家の方もいらしたと思いますが...実はこっそり幼稚園に「かわいいもの・かっこいいもの・すてきなもの」を持ってきて、見せ合いっこ、時には取り換えっこ!?、そして「あげる」「貰う」が子ども同士の中であったことを。わたしたちも、確認できたときには、子どもたちに声をかけ、お預かりさせていただくことができました。今回は全員に「幼稚園にもってくるもの」について一緒に考えて貰うことにしました。社会性が育ち、身近な友達と「秘密」を共有することがあるでしょう。それは成長の印でもあります。ただ、今回のように「特別のプレゼント」を集団生活の中で容認してしまえば、「貰った⇔貰わなかった」「返す⇔返さない」「お礼する⇔しない」...といった子どもたちが当初想定していた単純なやり取りでは済まないことになりかねません。子どもたちの中には「なんで家のものを幼稚園にもっていったらあかんの？」と不思議に思っていたようですが、改めて、子どもたちに「内緒のもちもの」について一緒に考えることで、鞆の中にこっそり潜ませる「あれやこれや」が本当に園生活に必要なものであるかを各々で考え判断する機会になってくれると嬉しく思います。また、保護者の方にもお願いします。子どもたちが持っている小物類は多種多様で、何をどれだけ持っているのか把握しにくいとは思いますが、今一度その必要性を子どもたちとご相談いただけると幸いです。もちろん、なんでもかんでも「禁止!」という話ではありません。中には「みんなに〇〇してあげたい」という「本当の特別なモノ」がありましたら、どうぞ遠慮なくお声かけください。

6歳を迎えるころ、子どもたちは、行動の前に思考し、思考した道筋にそって行動し、更に思考していくことができ始めます。お家の方々のご理解とご協力のもと、子どもたちの毎日を豊かにするために「思考の種」をご一緒に撒いていきたいと思ひます。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。